

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

オーシャンズ11 (OCEAN'S ELEVEN)

2002 (平成14) 年3月2日鑑賞

Data

監督: スティーブン・ソダーバーグ

出演: ジョージ・クルーニー/アン

ディ・ガルシア/ジュリア・

ロバーツ

👁️👁️ みどころ

ハリウッドの旬の役者を大勢集めて「犯罪ドリームチーム」を結成。そして、ラスベガスの巨大金庫から1億5000万ドルを見事奪いとる。いかにもアメリカ的な罪のない(?) 犯罪映画。お目当てのスターに出会えば、ストーリーはどうでもいい・・・?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<史上最強の犯罪ドリームチーム>

ラスベガスのカジノ。ここでは毎日巨大な現金が動く。そこに目をつけた犯罪のプロのオーシャン (ジョージ・クルーニー) はラスベガスの地下金庫から1億5000万ドルを奪い取る計画を立てた。ターゲットはラスベガスの帝王ベネディクト (アンディ・ガルシア)。オーシャンは各種の犯罪のプロを集め、彼らに作戦を授ける。

合計11名の史上最強の「犯罪ドリームチーム」の面々は、ラストイー (ブラッド・ピット)、ライナス (マット・デイモン) などのハンサムボーイの他、身の軽い中国人のイエン (シャオポー・クイン) など。

紅一点のテス (ジュリア・ロバーツ) はオーシャンの妻だが、離婚寸前。そして、今はラスベガスの帝王ベネディクトの恋人になっている。

実は、このテスへの愛情をめぐるオーシャンとベネディクトとの確執が、この犯罪の大きな動機となっていたことが後にわかる・・・。

とにかくハリウッドの旬の役者を大勢集め、これらを駒の如く使いこなしているが、その使いこなしをしている監督はスティーブン・ソダーバーグ監督。

2001年のアカデミー賞において、監督賞も「グラディエーター」のリドリー・スコットが取るだろうとの大方の予想を覆し、「トラフィック」で監督賞を獲得した、今が旬の監督だ。

尚、スティーブン・ソダーバーグ監督は、2001年ジュリア・ロバーツ主演の「エリン・ブロコピッチ」を撮ったが、ジュリア・ロバーツはこれでアカデミー賞主演女優賞を受賞している。

このような意味では、期待が大きく、TVや新聞でのコマーシャルも効き、映画館は結構満員。上映前は列をなして並んでいる状態だった。

<オールスター戦のあっけなさ>

しかし……。映画の出来は……。

はっきり言って今ひとつ。もっとはっきり言えば「何だ、こんなものか!」という程度。何しろ役者が多すぎるからドリームチーム各自の役割分担を理解するだけでも大変。また、ドリームチームによる現ナマ強奪作戦は当然複雑を極めて難解。

要するにわからない。

その上、現実の作戦決行の場面では、犯罪のプロたちも結構ドジなことをやり、結果オーライの場面も多い。

ここらのヘマを見ていると、昔の人気作品「ナポレオン・ソロ」の2人、ナポレオン・ソロ（ロバート・ヴォーン）とイリヤ・クリアキン（デヴィット・マッカム）のかけ合いが面白い、シンプルで楽しいスパイ映画を思い出す。

もっとも途中からは、ベネディクトとの「対話」を通して、現ナマ強奪作戦の筋書きが少しずつわかるし、テスをめぐる2人の男の確執もよく理解できて、まあこんなものかと納得できる。

特におすすめ作品ではないが、自分の好きなスターの、格好いいところを見るにはうってつけの映画だろう。

しかし今年アカデミー賞には程遠い、単なる娯楽作品であることは十分認識されたい。

2002（平成14）年3月記